

身近にある 「ひきこもり」を 一緒に考える

新潟市ひきこもり相談支援センターの紹介と併せて

内閣府は2022年度「子ども・若者の意識と生活に関する調査」の中で、様々な理由により学校やアルバイトや仕事などの外との関わりを避けている、いわゆるひきこもり状態にある人は、15～39歳で2.05%、40～64歳で2.02%おり、全国の数字にあてはめて約146万人と推計されていると公表しています。その様な中で新潟市ひきこもり相談支援センターにおいて、支援相談員として勤務されている講師の話を押聴し、今私たちにもできることがないか考えてみませんか。

講師：齋藤 勇太 氏

新潟市ひきこもり相談支援センター勤務

1984年生まれ。学生時代にアルバイト20職と教員採用試験20連敗を経験。大学院修了後、県内外のフリースクール（計5年）、青年海外協力隊（エクアドル野球隊員2年）、等の勤務を経て15年ぶりに新潟市に帰省。2017年にささえあいコミュニティ生活協同組合新潟に入職。同団体が実施する新潟市ひきこもり相談支援センターに勤務し、2020年より責任者とし現在に至る。新潟市市民活動支援センター理事、NPO法人プエルタ・ハル理事長などにも関わる。

日時

2024年度 **11月17日(日)**

13時30分～15時(14時30分から約30分 質疑)

会場

新潟市市民活動支援センター 研修室

新潟市中央区西堀前通六番町894-1 西堀6番館ビル3階

参加費

無料



裏面に申し込み方法→